Stand with grace, pride, and modesty

夫　明美

サッカー日本女子代表チーム「なでしこジャパン」がW杯優勝という前人未到の偉業を達成しました。この素晴らしいニュースに日本は沸き立ち、連日の報道で彼女らの姿を見ない日はありません。出発以前は昨年のW杯ほどの注目はなかったようですが、予選から勝ち抜き、決勝トーナメントを勝ち進むにつれて報道も多くなり、私たちも多くのことを知るようになりました。その中で、多くの選手たちは本業のサッカーだけに専心できる生活状況ではないという事実が特に印象に残りました。「自分の好きなことができる」のは人間にとって幸せなことではありますが、大人になるとそれだけでは生きていけない壁を感じ始めます。きっと、なでしこメンバーにもそのような葛藤があるのではないかと、推察しました。その中で彼女らを支えたもの、奮えたたせたものは何なのか、選手の談話から思いをはせました。

優勝という栄冠とともに、得点王と最優秀選手の二冠を得た澤穂希（さわ　ほまれ）選手を取り上げたいと思います。澤選手は幼いころから少年サッカー選手に交じって、文字通り「サッカー人生」を歩んでこられています。特に注目に値するのは、彼女は 32 歳という若さでありながら、人生の半分以上を「代表選手」として過ごしておられていることです。そこには一般人が想像も及ばないプレッシャーや、過酷な精神的・肉体的負担があることでしょう。（実際、澤選手は国内リーグから海外リーグに渡るも、プロリーグの休止により帰国されています。予期せぬ外部的な理由により、自分の目標が途中で断たれる落胆はどれほど深いことでしょうか。そこから再び復活するには相当な力が必要だと思います。）また、ご自分よりも後輩の選手を導くキャプテンとしての使命感、覚悟はどれほど大きくレベルの高いものか。それでも誰にも見えないところで長年努力を重ね、そのプロセスを声高に語ることなく「結果がすべて」と明言する潔さに胸を打たれます。ご自分が経てこらえた道を振り返り、「今後はサッカーのために自分をささげる」という人間性の大きさに驚きをもった敬意を抱きます。自分の道に使命感をもって専心し、身を削って努力し、結果・評価を得て、謙虚にそれを受け止める、澤選手の経歴とコメントから学ぶことが多いように思います。

優勝を決定づけるボールがゴールネットに刺さった瞬間、選手たちが一堂に駆け寄りあい互いに抱擁する姿、汗と埃にまみれたユニフォームに身を包んで、日焼けした顔に真っ白な歯が輝く笑顔は本当に美しいものでした。「内面からの美」をこれほど端的に表す姿を他に思いつきません。最後に、みなさんも何度も目にされた撫子の花言葉で本稿を締めくくります。

なでしこ：純愛、大胆、勇敢